

干潟と保全の取り組み (No. 66)

干潟の名称	王司(千鳥ヶ浜)干潟		
海域(府県)名*1	周防灘(山口県)	エリア名*1	
干潟の面積	ha 出典:【 ( )】		
干潟のタイプ	前浜干潟 河口干潟 潟湖干潟 沖州 人工干潟 その他( )		
干潟の特徴	下関市の瀬戸内海側に位置し、アサリ、ハマグリ等の二枚貝の生息場となっている。また、冬季はノリ養殖も営まれている。底質はほぼ砂泥質で、底生生物はカニ類、ヤドカリ等が生息している。		
保全の取り組み名称	干潟の耕耘、ツメタガイ等の除去		
実施団体名	王司干潟改良グループ		
連絡先住所	〒752-0915 山口県下関市王司本町6丁目2番28号		
代表者名	矢儀 伸治	Email	
団体会員数	25名	HP	
(活動の概要) アサリ等の二枚貝の生息環境や干潟の機能を維持するため、干潟耕耘やツメタガイ等の除去活動を行う。			
(主な活動内容) 種の供給・再生 調査研究 干潟清掃 研修会・学習会 他との協同連携 その他(干潟耕耘、ツメタガイ等の除去、竹立てによるアサリ稚貝の着底促進)			
(最近の活動実績) 平成29年4月24日:清掃活動 参加者478名(地域の小学生との共同活動) 平成29年6月9日:ツメタガイ類及びその卵塊の除去活動 参加者83名 (地域の小学生との共同活動) 平成29年7月24日~8月22日:竹立て活動 平成29年8月21日~8月22日:干潟の耕耘活動 平成29年8月23日:モニタリング 平成29年12月4日:アサリ母貝団地設置			
		 <p>ツメタガイ類及びその卵塊の除去活動</p>  <p>干潟の耕耘活動</p>	

関連する生物種等	は希少種
○野鳥: ○干潟の生き物:アサリ、ハマグリ等の二枚貝類、ガザミ、カニ類、シヤコ、ゴカイ類等 ○海藻(海草):アマモ類 ○植物:	
希少種の特徴等	
「希少種は存在しない」	

\*1:「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」(環境省:H28年~30年)参照

干潟と保全の取り組み (No. 67)

干潟の名称	榎野川河口干潟 (山口湾)		
海域 (府県) 名*1	周防灘 (山口県)	エリア名*1	
干潟の面積	344ha 出典:【 (榎野川河口域・干潟自然再生全体構想: 2004.3)】		
干潟のタイプ	前浜干潟 河口干潟 潟湖干潟 沖州 人工干潟 その他 ( )		
干潟の特徴	シギ・チドリ類やカモ類など多くの渡り鳥や野鳥の休息地となっており、日本の重要湿地 500 に選ばれている。また、絶滅危惧種カブトガニの生息地でもある。		
保全の取り組み名称	榎野川河口域干潟等における里海再生活動		
実施団体名	榎野川河口域・干潟自然再生協議会		
連絡先住所	〒753-8501 山口県山口市滝町 1-1 山口県環境生活部自然保護課 (協議会事務局)		
代表者名	浮田 正夫	Email	a15600@pref.yamaguchi.lg.jp
団体会員数	56名	HP	
(活動の概要)	流域の多様な主体の参画と産官学民の協働・連携により、協議会構成員が干潟耕耘、カブトガニ生息状況調査、野鳥調査、調査研究、環境学習活動等を実施。		
(主な活動内容)	種の供給・再生 調査研究 干潟清掃 研修会・学習会 他との協同連携 その他 (干潟再生活動等)		
(最近の活動実績)	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 干潟再生活動 (2017年4月29日) 参加者: 430人 内容: 干潟耕耘、アサリ再生活動、生物観察会、潮干狩り体験等</li> <li>▶ あさり姫プロジェクト@榎野川河口干潟 (2017年7月22日) 参加者: 50人 内容: 竹を活用したアサリ育成手法による環境学習会</li> <li>▶ カブトガニ幼生生息調査 (2017年8月20日、9月8日) 参加者: 計50人 内容: ベルトトランセクト法による生息状況調査</li> <li>▶ カブトガニ観察会 (2017年8月20日) 参加者: 54人 内容: 親子対象の観察会</li> <li>▶ 野鳥の教室 (2017年12月3日) 参加者: 19人 内容: 山口県立きらら浜自然観察公園における野鳥観察等</li> <li>▶ 二枚貝・野鳥調査、調査研究等 (通年)</li> <li>▶ ナルトビエイ駆除 (7月~10月)</li> <li>▶ 協議会会議 (2017年1月29日、4月29日)</li> </ul>		



榎野川河口干潟 (南潟)



干潟の耕耘作業



地元産アサリ

\*1: 「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」(環境省: H28年~30年) 参照

関連する生物種等	は希少種
<p>○野鳥: シギ・チドリ類 (オオソリハシシギ、チュウシャクシギ、ホウロクシギ、アカアシシギ、アオアシシギ、カラフトアオアシシギ、ハマシギ、ダイゼン、シロチドリ等)、セイタカシギ、カモ類 (カルガモ、オナガガモ、マガモ、ヒドリガモ、トモエガモ等)、カイツブリ、カワウ、サギ類 (アオサギ、ダイサギ、コサギ等)、クロツラヘラサギ、オオバン、カモメ類 (ユリカモメ、ズグロカモメ、ウミネコ、ゼグロカモメ等)、ミサゴ、トビ等</p> <p>○干潟の生き物: カブトガニ、貝類 (アサリ、ヒメシラトリ、マテガイ、ソトオリガイ、ウミニナ、ヘナタリ、オオノガイ、ホトトギス等)、甲殻類 (ハサミシャコエビ、ニホンスナモグリ、アナジャコ、マメコブシガニ、オサガニ、ハクセンシオマネギ、テッポウエビ等)、多毛類、星口類、腕足類 (ミドリシヤミセンガイ等)、魚類 (トビハゼ等) 等</p> <p>○海藻 (海草): アオサ、オゴノリ、カイガラアマノリ等</p> <p>○植物: ヨシ、ハマゴウ、ホソバハマアカザ等</p>	
希少種の特徴等	
<p>▶ カブトガニ (環境省絶滅危惧 I 類 (CR+EN)) 分類: カブトエビ目 カブトエビ科 特徴等: 約2億年前からほとんど形を変えておらず、「生きている化石」と呼ばれている。日本では瀬戸内海と九州北部に生息しているが、近年、沿岸の埋立てによる産卵場・生育場の消失等により個体数が急激に減少している。かつては山口県内においても広い範囲で生息していたが、現在では山口湾、平生湾及び千鳥湾の3沿岸域でしか生息が確認されていない。協議会では、山口湾のカブトガニ産卵場・生育場の保全を目的とし、2006年からワーキンググループにより、幼生の生息状況調査や観察会等を通じた普及啓発活動を実施している。</p>	
	
	
<p>▶ クロツラヘラサギ (環境省絶滅危惧 I B 類 (EN)) 分類: コウノトリ目 トキ科 特徴等: 体長約70cmの白い体、しゃもじのような特徴的な嘴を持つ。主に朝鮮半島で繁殖し、越冬のため山口や九州・沖縄の河口域、干潟を訪れる。2017年の世界一斉センサスによると、世界で3,941羽、日本は台湾に次いで2番目に多い433羽が確認されている。山口湾においては、NPO法人野鳥やまぐちによる飛来数調査が行われており、例年20~30羽が確認されている。また、湾に隣接する山口県立きらら浜自然観察公園に訪れることもあり、ユニークな餌採り行動等を間近で観察できる。</p>	
	
	

干潟と保全の取り組み (No. 68)

干潟の名称	豊前市八屋干潟		
海域(府県)名*1	周防灘(福岡県)	エリア名*1	瀬戸内海西部
干潟の面積	175ha 出典:【第4回自然環境保全基礎調査海域生物環境調査報告書(干潟・藻場・サンゴ礁調査)第1巻 干潟】 ※面積は松江干潟を含む		
干潟のタイプ	前浜干潟 河口干潟 潟湖干潟 沖州 人工干潟 その他( )		
干潟の特徴	砂質の遠浅な海底地形である。		
保全の取り組み名称	豊前市八屋地先の干潟の地域資源の維持・回復		
実施団体名	福岡県豊前海区環境・生態系保全対策地域協議会		
連絡先住所	豊前市大字吉木955		
代表者名	—	Email	—
団体会員数	38名	HP	—
(活動の概要)	ナルトビエイの食害を防ぐことなどを目的としたアサリの保護区の設定や、アサリの移植、近隣の市民に対する普及啓発活動などを実施。		
(主な活動内容)	種の供給・再生 調査研究 干潟清掃 研修会・学習会 他との協同連携 その他(保護区の設定)		
(最近の活動実績)	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年6月23日 理解・増進を図る取り組み 八屋小学校の児童に対して、干潟と保全活動の内容を紹介し、その後、共同でアサリの生育調査を実施。</li> <li>平成29年10月16～19日 底質改善を目的とした覆砂の実施</li> </ul>		
			
	理解・増進を図る取り組み		

関連する生物種等	は希少種
<p>○野鳥:ゴイサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、マガモ、カルガモ、ヨシガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ホシハジロ、ウミアイサ、ミサゴ、トビ、バン、オオバン、シロチドリ、キョウジョシギ、キアシシギ、チュウシャクシギ、キジバト、カワラバト、カワセミ、コゲラ、ヒバリ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、オオヨシキリ、セッカ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス等</p> <p>○干潟の生き物:アサリ、アナジャコ、アオギス、シロチチブ、シラヌイハゼ</p>	
希少種の特徴等	
<p>アオギス(環境省絶滅危惧IA類、福岡県絶滅危惧IB類) 分類:スズキ目スキ科 特徴等:体長35cm。シロギスに似ているが、第2背鰭に小黑点列があることや、腹鰭と臀鰭の起部が黄色いことで区別できる。規模が大きく、勾配が緩やかで、近隣に河川が流入する砂質の前浜干潟に生息する。産卵期は5～7月。5月頃、産卵のため豊前海の沿岸の浅所や河口域に出現する。満潮時の汀線付近に出現することもある。当歳魚は、9～10月にかけて前浜干潟や河口域で採集される。</p> <p>シロチチブ(環境省準絶滅危惧、福岡県準絶滅危惧) 分類:スズキ目ハゼ科 特徴等:周防灘、有明海、一部の玄界灘・響灘の前浜干潟に分布。体長8cm。大規模な湾の浅海域に生息する。生息地の底質は、アサリやカキ等の貝殻が多数表在している砂や砂泥であることが多い。産卵期は5～9月で、有明海の干潟で複数例確認されている。</p> <p>シラヌイハゼ(環境省準絶滅危惧、福岡県準絶滅危惧) 分類:スズキ目ハゼ科 特徴等:周防灘、響灘、玄海灘、有明海の前浜干潟、浅海域に分布。有明海ではシルトを含む砂泥底でも確認されることがあるが、それ以外の海域では砂底でも確認されている。有明海や周防灘の前浜干潟浅所では、産卵期である春から夏にかけてみられることが多い。</p>	

\*1:「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」(環境省:H28年～30年)参照

干潟と保全の取り組み (No. 69)

干潟の名称	北九州市 曾根干潟	
海域(府県)名*1	周防灘(福岡県)	エリア名*1
干潟の面積	517ha 出典:【(北九州市環境局環境監視課のホームページより)】	
干潟のタイプ	前浜干潟 河口干潟 潟湖干潟 沖州 人工干潟 その他( )	
干潟の特徴	干潟には多種多様な生物が生息し、冬には大陸から渡り鳥が飛来してくる。 古くから漁業が営まれており、人々の生活の場にもなっている。沖合には、平成18年3月開港した北九州空港がある。	
保全の取り組み名称	曾根干潟クリーン作戦	
実施団体名	北九州市立曾根東小学校	
連絡先住所	〒800-0213 北九州市小倉南区中曾根東三丁目5-1	
代表者名	学校長 古澤 律子	Email sonhigashi-e@kita9.ed.jp
団体会員数	477名 (H29.5.1現在の児童数)	HP <a href="http://www.kita9.ed.jp/sonhigashi-e/">http://www.kita9.ed.jp/sonhigashi-e/</a>
(活動の概要)	曾根干潟の生態系を崩さないように干潟のごみを学校、保護者、地域と協力して拾う。このような活動を通じて、ふるさとに対する愛着をもち、環境を守ろうとする心情を培う(郷土愛・環境保全・生命尊重・資源の有効活用)。	
(主な活動内容)	種の供給・再生 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">調査研究</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">干潟清掃</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">研修会・学習会</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">他との協同連携</span> その他( )	
(最近の活動実績)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・29年6月6日 曾根干潟クリーン作戦</li> <li>・29年9月19日 曾根干潟クリーン作戦</li> </ul>	
		

関連する生物種等	[ ]は希少種
<p>○野鳥：<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ズグロカモメ</span>、セグロカモメ、コアジサシ、ホウロクシギ、ダイシャクシギ、カラフトアオアシシギ、<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ツクシガモ</span>、チュウヒ、マガモ、キアシシギ、オナガガモ、ミサゴ、チュウサギ、アオサギ</p> <p>○干潟の生き物：アオギス、<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">カブトガニ</span>、シマヘナタリ、トビハゼ、ハクセンシオマネキ、イトゴカイ類、ガンツキ</p> <p>○植物：ホソバノハマアカザ、ハママツナ、ハマボウ、ハマサジ、シバナ、アイアシ、ヨシ、ナガミノオニシバ、シオクグ、ハマナタマメ、ハマエンドウ、ハマウド、ハマゼリ、ハマヒルガオ、ハマゴウ</p>	
希少種の特徴等	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ズグロカモメ(環境省 絶滅危惧Ⅱ類) ユリカモメより少し小さい。くちばしは黒く短く脚は暗赤色。背と翼は薄い青灰色。夏季に中国沿岸で繁殖し、冬季には日本や台湾やベトナムの海岸や干潟に渡って越冬する。</li> <li>・ツクシガモ(環境省 絶滅危惧Ⅱ類) 鮮やかな色彩の大型カモ類。オス、メスともに黒緑色の頭と赤いくちばしを持ち、体は白く、胸から腹にかけて黒い線がある。ユーラシア大陸の温帯で繁殖。曾根干潟では300羽以上が越冬し、12~3月ごろ見られる。</li> <li>・カブトガニ(環境省 絶滅危惧Ⅰ類) 瀬戸内海沿岸から九州に分布。6~8月の大潮期、朽網川や貫川の河口付近の砂浜に、沖合からつがいややってきて産卵。卵からかえった幼生は脱皮をくりかえしながら、全長11cmの8令幼生に成長するまで、干潟で生息している。</li> </ul>	

\*1:「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」(環境省: H28年~30年) 参照

干潟と保全の取り組み (No. 70)

干潟の名称	北九州市小倉南区曾根干潟		
海域(府県)名*1	周防灘(福岡県)	エリア名*1	
干潟の面積	5 1 7 ha 出典:【第2回自然環境保全基礎調査干潟、藻場、サンゴ礁分布調査報告書 昭和50年福岡県】		
干潟のタイプ	前浜干潟 河口干潟 潟湖干潟 沖州 人工干潟 その他( )		
干潟の特徴	環境省「重要湿地」やIBA重要野鳥生息地に選定され、絶滅危惧種のカブトガニやズグロカモメなどが見られる国際的にも貴重な湿地。泥質、砂泥質、砂質、礫と多様な底質があり塩生湿地もある。漁業では豊前海一粒牡蠣が有名。周辺には農地や産業用地が広がり、沖には北九州空港がある。		
保全の取り組み名称	曾根干潟の自然環境を守るための普及啓発事業		
実施団体名	日本野鳥の会北九州支部		
連絡先住所	〒804-0054 福岡県北九州市戸畑区牧山新町2-1-6 第1コーポ松本22号室		
代表者名	前田 伸一	Email	s.zosterops.63@clock.ocn.ne.jp
団体会員数	304名(18.1月)	HP	http://kitakyushuyachou.web.fc2.com/
(活動の概要)	1998年から毎月の定例探鳥会を開催し、干潟に生息する鳥類の動向把握に努めている。さらに、地元小学校との協働による観察会や清掃活動を実施し、保全のための普及啓発を行っている。		
(主な活動内容)	種の供給・再生 調査研究 干潟清掃 研修会・学習会 他との協同連携 その他(干潟保全(鳥類等)に影響が懸念される開発行為に対する意見提出)		
(最近の活動実績)	平成29年4月～平成30年1月:毎月の定例探鳥会開催(参加者約200名)。 平成29年4月:曾根海岸清掃探鳥会を開催 平成29年6月・9月:地元小学校の干潟クリーン作戦に協力参加。 平成30年1月:曾根干潟の鳥類生息調査及びガン・カモ類越冬調査の実施。 平成30年1月:地元小学校の曾根干潟野鳥観察会を指導。		
			
	地元小学校野鳥観察会	探鳥会	

\*1:「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」(環境省:H28年～30年)参照

関連する生物種等	は希少種
○野鳥:	ツクシガモ、ホオジロガモ、カンムリカイツブリ、ササゴイ、アマサギ、チュウサギ、クロサギ、クロツラヘラサギ、ヒクイナ、シロチドリ、オオソリハシギ、ハマシギ、ダイシャクシギ、ホウロクシギ、ズグロカモメ、コアジサシ、コチョウゲンボウ、ミサゴ、ハヤブサ、コシアカツバメ、オオヨシキリ、メダイチドリ、オオメダイチドリ、コシャクシギ、カラフトアオアシギ、オバシギ、コオバシギ、ヘラシギ、チュウシャクシギ、マガモ、ユリカモメ、カルガモ、ヒドリガモ、ハシボソガラス、ダイサギ
○干潟の生き物:	カブトガニ、アオギス、ハクセンシオマネキ、オサガニ、シマヘナタリ ウミニナ、イボウミニナ、ヘナタリ、ゴマフダマガイ、テリザクラ、イチョウシラトリ、アラムシロガイ、ホトトギスガイ、シオフキガイ、マテガイ、アサリ、ソトオリガイ、シロスジフジツボ、マメコブシガニ、イソガニ、ヤマトオサガニ、ユムシ
○海藻(海草):	コアマモ
○植物:	ハマボウ、シバナ、ハマサジ、シオクグ
希少種の特徴等	
ズグロカモメ(環境省RDB絶滅危惧Ⅱ類・福岡県RDB絶滅危惧Ⅱ類)	
分類:	チドリ目カモメ科
特徴等:	小型のカモメ類で全長33cm。カニ、ゴカイ、貝類などを捕食する。中国東北部、韓国で繁殖し、韓国南部、日本、中国南部で越冬する。 曾根干潟には約400羽が飛来し、国内の有数の越冬地である。
	©日本野鳥の会北九州支部
クロツラヘラサギ(環境省RDB絶滅危惧ⅠB類・福岡県RDB絶滅危惧ⅠB類)	
分類:	ペリカン目トキ科
特徴等:	主に朝鮮半島の西海岸で繁殖し、韓国南部、日本、中国南部、台湾、ベトナムで越冬する。日本では九州、沖縄で数カ所の越冬地があるほか、各地で記録される。干潟、河川、池、水路で魚類や甲殻類などを、へら状のくちばしを左右に振りながら採食する。曾根干潟には冬鳥として約30羽が飛来する。
	©日本野鳥の会北九州支部
カブトガニ(環境省絶滅危惧Ⅰ類、福岡県絶滅危惧ⅠA類)	
分類:	剣尾目カブトガニ科
特徴等:	以前は、瀬戸内海及び九州北部の各地海岸で普通に見られたが、近年は激減している。6～8月の大潮満潮時に砂浜の最満潮線付近で産卵。孵化した幼生は隣接した泥質干潟、垂成体は干潟外の藻場等、成体は沖合の浅海域で過ごすなど成長段階で異なる多様な環境がセットで必要なため、沿岸環境の健全性を示す指標種と言われる。 曾根干潟では産卵に来浜するつがい数が2004～2005年と2013～2016年は1000つがいを大きく越え、国内最大級の産卵生息地であることが確認されたが、5年間の急増の後、激減するという大きな変動、干潟の幼生の数の変動や生息域の減少など、今後が危惧される要素もみられる。
	©日本カブトガニを守る会 福岡支部

干潟と保全の取り組み (No. 71)

干潟の名称	曾根干潟		
海域(府県)名*1	周防灘(福岡県)	エリア名*1	
干潟の面積	5 1 7 ha 出典:【第2回自然環境保全基礎調査干潟、藻場、サンゴ礁分布調査報告書 昭和50年福岡県】		
干潟のタイプ	前浜干潟 河口干潟 潟湖干潟 沖州 人工干潟 その他( )		
干潟の特徴	環境省「重要湿地」やI B A重要野鳥生息地に選定され、絶滅危惧種のカブトガニやズグロカモメなどが見られる国際的にも貴重な湿地。泥質、砂泥質、砂質、礫と多様な底質があり塩生湿地もある。漁業では豊前海一粒牡蠣が有名。周辺には農地や産業用地が広がり、沖には北九州空港がある。		
保全の取り組み名称	曾根干潟のカブトガニと生息地の自然環境を守るための普及啓発事業		
実施団体名	日本カブトガニを守る会福岡支部		
連絡先住所	〒800-0232 福岡県北九州市小倉南区朽網東5-12-26		
代表者名	高橋 俊吾	Email	shun5-taka8c@jcom.home.ne.jp
団体会員数	41名	HP	https://blushipjapan.com/crew/sonheigata
(活動の概要)			
国内最大級の生息地である曾根干潟のカブトガニの保護と生息地の自然環境を守るために、幼生調査や産卵調査を継続的に行うほか、産卵観察会等の実施や展示施設での解説等の環境普及啓発活動、産卵場整備や地元団体との共働による干潟の清掃等の保全活動を実施			
(主な活動内容)			
種の供給・再生 調査研究 干潟清掃 研修会・学習会 他との協同連携 その他( )			
(最近の活動実績)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年5月20日 春の干潟の野鳥と水辺の希少生物観察会・清掃活動(共催51名参加)</li> <li>平成29年6月9日～15日,24日～30日 カブトガニ産卵調査</li> <li>平成29年6月11日 朽網海岸漂着ゴミの清掃・産卵場整備(地元団体共催82名参加)</li> <li>平成29年7月8日～15日,22日～29日 カブトガニ産卵調査</li> <li>平成29年7月23日 カブトガニ産卵観察会(14名参加)</li> <li>平成29年7月25～26日 広島大学「曾根干潟におけるカブトガニの生息状況」調査協力</li> <li>平成29年7月27日 カブトガニの産卵観察会と干潟清掃(地元団体共催69名参加)</li> <li>平成29年8月7日～12日,22日～25日 カブトガニ産卵調査</li> <li>平成29年9月5日～10日,19日～23日 カブトガニ1齢幼生打ち上げ個体の保護</li> <li>平成29年9月24日 カブトガニシンポジウム後援,支部会員2名講師</li> <li>平成29年11月11日 秋の干潟の野鳥と河口の希少生物観察会・河口清掃(共催66名参加)</li> </ul>			
※幼生調査は3月～12月 月2回程度、春秋の定期調査 ※朽網産卵場の環境整備は年間を通して2～3名の会員で随時 ※カブトガニ自慢館での解説(4月～12月)随時			
			
海岸清掃活動	産卵観察会	カブトガニ自慢館	

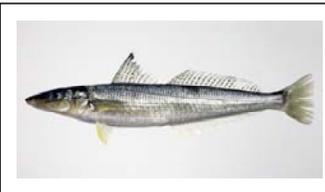
\*1:「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」(環境省:H28年～30年)参照

関連する生物種等		は希少種
○野鳥: ツクシガモ、ホオジロガモ、カンムリカイツブリ、ササゴイ、アマサギ、チュウサギ、クロサギ、クツラヘラサギ、ヒクイナ、シロチドリ、オオソリハシジギ、ハマシギ、ダイシャクシギ、ホウロクシギ、ズグロカモメ、コアジサシ、コチョウゲンボウ、ミサゴ、ハヤブサ、コシアカツバメ、オオヨシキリ、メダイチドリ、オオメダイチドリ、コシャクシギ、カラフトアオアシシギ、オバシギ、コオバシギ、ヘラシギ、チュウシャクシギ、マガモ、ユリカモメ、カルガモ、ヒドリガモ、ハシボソガラス、ダイサギ		
○干潟の生き物: カブトガニ、アオギス、ハクセンシオマネキ、オサガニ、シマヘナタリ、ウミニナ、イボウミニナ、ヘナタリ、ゴマフダマガイ、テリザクラ、イチョウシラトリ、アラムシロガイ、ホトトギスガイ、シオフキガイ、マテガイ、アサリ、ソトオリガイ、シロスジフジツボ、マメコブシガニ、イソガニ、ヤマトオサガニ、ユムシ		
○海藻(海草): コアマモ		
○植物: ハマボウ、シバナ、ハマサジ、シオクグ		
希少種の特徴等		
ズグロカモメ(環境省RDB絶滅危惧Ⅱ類・福岡県RDB絶滅危惧Ⅱ類)		
分類: チドリ目カモメ科		
特徴等: 小型のカモメ類で全長33cm。カニ、ゴカイ、貝類などを捕食する。中国東北部、韓国で繁殖し、韓国南部、日本、中国南部で越冬する。曾根干潟には約400羽が飛来し、国内の有数の越冬地である。		◎日本野鳥の会北九州支部
クツラヘラサギ(環境省RDB絶滅危惧ⅠB類・福岡県RDB絶滅危惧ⅠB類)		
分類: ペリカン目トキ科		
特徴等: 主に朝鮮半島の西海岸で繁殖し、韓国南部、日本、中国南部、台湾、ベトナムで越冬する。日本では九州、沖縄で数カ所の越冬地があるほか、各地で記録される。干潟、河川、池、水路で魚類や甲殻類などを、へら状のくちばしを左右に振りながら採食する。曾根干潟には冬鳥として約30羽が飛来する。		◎日本野鳥の会北九州支部
カブトガニ(環境省絶滅危惧Ⅰ類、福岡県絶滅危惧ⅠA類)		
分類: 剣尾目カブトガニ科		
特徴等: 以前は、瀬戸内海及び九州北部の各地海岸で普通に見られたが、近年は激減している。6～8月の大潮満潮時に砂浜の最満潮線付近で産卵。孵化した幼生は隣接した泥質干潟、垂成体は干潟外の藻場等、成体は沖合の浅海域で過ごすなど成長段階で異なる多様な環境がセットで必要なため、沿岸環境の健全性を示す指標種と言われる。曾根干潟では産卵に来浜するつがい数が2004～2005年と2013～2016年は1000つがいを大きく越え、国内最大級の産卵生息地であることが確認されたが、5年間の急増の後、激減するという大きな変動、干潟の幼生の数の変動や生息域の減少など、今後が危惧される要素もみられる。		◎日本カブトガニを守る会福岡支部

干潟と保全の取り組み (No. 72)

干潟の名称	中津干潟・豊前海		
海域(府県)名*	周防灘(大分県・福岡県)	エリア名*	
干潟の面積	1,347ha(中津干潟のみ) 出典:【海域生物環境調査報告書(環境省1994.)】		
干潟のタイプ	前浜干潟(河口干潟) 潟湖干潟 沖州 人工干潟 その他( )		
干潟の特徴	周防灘西位置し、瀬戸内海最大規模の面積を有す。中心が中津干潟。砂質干潟、砂泥質干潟、泥質干潟、礫干潟の他、河口部には塩性湿地、砂浜、砂嘴などの環境がある。生息生物種のうち希少種が30%近い(水辺に遊ぶ会2013.)		
保全の取り組み名称	生きもの元気、子ども元気、漁師さんも元気な中津干潟・豊前海干潟を未来へ		
実施団体名	NPO法人水辺に遊ぶ会		
連絡先住所	〒871-0024 大分県中津市中央町2-8-35		
代表者名	足利由紀子	Email	<a href="mailto:ashikaga@mizubenasobukai.org">ashikaga@mizubenasobukai.org</a>
団体会員数	約150名	HP	<a href="http://mizubenasobukai.org/">http://mizubenasobukai.org/</a>
(活動の概要) 中津干潟・豊前海干潟の自然環境の保全と持続可能な活用を目的に1999年より活動。主な内容は①自然観察会や環境学習などの啓発活動、②生物調査(底生生物・鳥類・魚類・カブトガニ・アオギスほか)、環境調査、漂着ゴミ調査、郷土史聞き取りなど調査研究活動、③ビーチクリーン、松林景観再生活動、④漁業体験他ブルーツーリズム、⑤合意形成の推進ほか			
(主な活動内容) 種の供給・再生 <input type="checkbox"/> 調査研究 <input type="checkbox"/> 干潟清掃 <input type="checkbox"/> 研修会・学習会 <input type="checkbox"/> 他との協同連携 <input type="checkbox"/> その他(漁業体験、海岸松林景観再生、環境教育)			
(最近の活動実績) 啓発活動(参加者1068名) H29年5月4日ビーチクリーンと松林再生 H29年5月27日ひがたまつり(観察会とワークショップ) H29年6月27日おさかなホネホネ教室(骨の勉強) H29年7月22日夏休み干潟観察会 H29年7月30日底曳き網の生きもの観察 H29年8月20日アカテガニ産卵観察会 H29年7月20日～8月25日夏休み海のワークショップ H29年10月1日ビーチクリーンと松林再生 H29年10月29日海苔巻き教室 H29年11月3日浜遠足(再生松林で環境イベント)			
調査研究活動 H29年5月～9月カブトガニ生態調査・シギチドリ類調査・ベントス調査			
研修会・学習会 H30年3月4日中津干潟アカデミア第1回研究発表会開催(中津市共催)			
環境学習 中津市内小中学校:7校 延べ11回 宇佐市内小中学校:3校 延べ5回 福岡県豊前市内小学校:3校 延べ6回			



関連する生物種等		は希少種																																																																																																										
<p>○野鳥: ツクシガモ・ヨシガモ・チュウサギ・ヘラサギ・クロツラヘラサギ・シロチドリ・オオソリハシシギ・チュウシヤクシギ・ダイシヤクシギ・ハマシギ・ズグロカモメ・コアジサシ・ミサゴ・ハイタカ・オオタカ・ハヤブサ</p> <p>○干潟の生き物: カブトガニ・リシケタイラギ・ズベタイラギ・サビシラトリ・イチョウシラトリ・ムラサキガイ・ハマグリ・シマヘナタリ・カワイイ・イボウミニナ・オオシンデンカワザンショウ・バイ・ヒガシナメクジウオ・アオギス・タビラクチ・チクゼンハゼ・キセルハゼ</p> <p>○海藻(海草): コアマモ・アマモ(少)・ヤマトウミヒルモ</p> <p>○植物: シバナ・コウボウムギ・ハマボウ・ハマサジ・ハマツツナ・フクド・ウラギク</p>																																																																																																												
希少種の特徴等																																																																																																												
○渡り鳥 シギ・チドリ類: 春と秋の飛来数が全国トップクラス ダイゼン・チュウシヤクシギ・キアシシギ・キョウジョシギ・ハマシギは保全対象の国際基準(推定個体数の0.25%、東アジアオーストラリア地域フライウェイパートナーシップ)を満たす。 ヨシガモ: 2015年11月に10,000羽を記録、ラムサール登録基準を満たす ズグロカモメ: 例年80羽前後が飛来、ラムサール登録基準を満たす																																																																																																												
○アオギス: 各海域で近年絶滅、現在は豊前海のみ健全な個体群が維持されていると言われていた。																																																																																																												
○カブトガニ: 瀬戸内海では曾根干潟(北九州市)と並び、最大の棲息地																																																																																																												
○貝類: 中津干潟は群を抜いて貝類が多い																																																																																																												
○塩性湿地の植物群: ハマサジ・ハマボウ・シバナなど、塩性植物のまとまった生息が見られる																																																																																																												
  																																																																																																												
<table border="1"> <caption>中津干潟で確認された生物種数(2016年12月現在)</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">総種数</th> <th colspan="2">生息種数</th> </tr> <tr> <th>希少種数</th> <th>希少種数</th> <th>希少種数</th> <th>希少種数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="13">動物</td> <td>海綿動物門</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>4</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>刺胞動物門</td> <td>13</td> <td>2</td> <td>13</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>節足動物門</td> <td>142</td> <td>32</td> <td>142</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>外肛動物門</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>扁形動物門</td> <td>8</td> <td>1</td> <td>8</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>紐形動物門</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>腕足動物門</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>星口動物門</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>環形動物門</td> <td>35</td> <td>5</td> <td>35</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>ユムシ動物門</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>軟体動物門</td> <td>286</td> <td>112</td> <td>178</td> <td>71</td> </tr> <tr> <td>半索動物門</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>棘皮動物門</td> <td>12</td> <td>0</td> <td>12</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>脊索動物門</td> <td>241</td> <td>61</td> <td>239</td> <td>59</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">植物</td> <td>紅色植物門</td> <td>14</td> <td>3</td> <td>14</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>緑色植物門</td> <td>7</td> <td>0</td> <td>7</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>不等毛植物門</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>4</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>被子植物門</td> <td>39</td> <td>11</td> <td>39</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>814</td> <td>231 (28.4%)</td> <td>703</td> <td>188 (26.7%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※総種数には現在生息していない種や遺骸のみを確認した種も含まれる。</p>				総種数		生息種数		希少種数	希少種数	希少種数	希少種数	動物	海綿動物門	4	0	4	0	刺胞動物門	13	2	13	2	節足動物門	142	32	142	32	外肛動物門	1	0	1	0	扁形動物門	8	1	8	1	紐形動物門	1	0	1	0	腕足動物門	2	0	2	0	星口動物門	3	2	3	2	環形動物門	35	5	35	5	ユムシ動物門	1	1	1	1	軟体動物門	286	112	178	71	半索動物門	1	1	1	1	棘皮動物門	12	0	12	0	脊索動物門	241	61	239	59	植物	紅色植物門	14	3	14	3	緑色植物門	7	0	7	0	不等毛植物門	4	0	4	0	被子植物門	39	11	39	11	合計	814	231 (28.4%)	703	188 (26.7%)
	総種数			生息種数																																																																																																								
	希少種数	希少種数	希少種数	希少種数																																																																																																								
動物	海綿動物門	4	0	4	0																																																																																																							
	刺胞動物門	13	2	13	2																																																																																																							
	節足動物門	142	32	142	32																																																																																																							
	外肛動物門	1	0	1	0																																																																																																							
	扁形動物門	8	1	8	1																																																																																																							
	紐形動物門	1	0	1	0																																																																																																							
	腕足動物門	2	0	2	0																																																																																																							
	星口動物門	3	2	3	2																																																																																																							
	環形動物門	35	5	35	5																																																																																																							
	ユムシ動物門	1	1	1	1																																																																																																							
	軟体動物門	286	112	178	71																																																																																																							
	半索動物門	1	1	1	1																																																																																																							
	棘皮動物門	12	0	12	0																																																																																																							
脊索動物門	241	61	239	59																																																																																																								
植物	紅色植物門	14	3	14	3																																																																																																							
	緑色植物門	7	0	7	0																																																																																																							
	不等毛植物門	4	0	4	0																																																																																																							
	被子植物門	39	11	39	11																																																																																																							
合計	814	231 (28.4%)	703	188 (26.7%)																																																																																																								
写真上	チュウシヤクシギ																																																																																																											
写真中	アオギス																																																																																																											
写真下	カブトガニ																																																																																																											

\*1: 「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」(環境省: H28年～30年) 参照